

『摂南大学教育学研究』第11号発刊にあたって

「摂南大学教育学研究」編集委員会

委員長 吉田 佐治子

この度、『摂南大学教育学研究』(Bulletin of Educational Research of Setsunan University)第11号が完成いたしましたので、発刊いたします。

本研究会は、摂南大学教職支援センターの教員及び教職課程を履修した卒業生を中心に、教育の理論および実践的交流誌として発刊するもので、教職支援センターの研究事業として11年の歳月を刻むこととなります。

本年度から、教職教室は教職支援センターへと改組されました。摂南大学教職支援センターでは、教職を志す学生が、教員になるために必要な知識を身につけ、教育現場での実践的な体験を通じて学び、教師として求められる資質や能力を獲得すること、そして、これらのことを通して、学生がよりよき社会人・職業人として社会に貢献できることを目標に掲げています。これまで以上に、学生指導・学生支援を充実させていきたいと思っております。みなさまからのご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

今、社会の変化のスピードは、ますます上がっているように感じられます。それに伴い、教育や教員養成のあり方、考え方も変わろうとしています。そうした中で、教育とは何か、教師とは何かを、もう一度考えてみる必要があるように思われます。

本学の発展と共に教職課程の教育内容が益々充実していくための一助となるために、この『摂南大学教育学研究』が役立つことを願っています。

2015年1月31日

『摂南大学教育学研究』の発行および執筆等に関する申し合わせ

2004 年 12 月 24 日制定

2014 年 10 月 28 日改正

第 1 条 摂南大学教職支援センター（以下「本センター」という）は、研究およびセンター活動の成果の発表を目的として、本センターの機関誌として『摂南大学教育学研究』（英文名 *Bulletin of Educational Research of Setsunan University*）（以下「本年報」という）を発行する。

② 本年報は、原則として年 1 回発行する。ただし、必要に応じて特別号を発行することができる。

③ 発行・配布等にかかる費用は、本センター予算の一部をもってあてる。

第 2 条 編集兼発行者は、摂南大学教職支援センター『摂南大学教育学研究』編集委員会（以下「委員会」という）とする。

第 3 条 委員会は、本センター全専任教員により構成する。

② 委員長は、本センター主任が務める。

③ 委員会に幹事をおき、委員の互選によりこれを決定する。幹事の任期は、当分の間、これを定めない。

第 4 条 執筆者は、当分の間、次のとおりとする。

1. 本センター専任教員
2. 本センター非常勤教員
3. 本学教職課程修了者
4. 本センター専任教員を含む共同研究者
5. その他、委員が必要と認める者で、委員会の承認を得た者

② 執筆を希望する者は、執筆の意思を事前に委員に対し明らかにしなければならない。

第 5 条 本年報に掲載する著作は、次の 4 種に区分する。

1. 研究論文 : 原著性のある研究の成果
2. 実践報告 : 教職教育、学校教育の実践について記述・解説したもので、原著性、記録性のあるもの
3. 資料・文献紹介 : 紹介者の問題関心に即して有意味な書籍、文献、資料等を紹介、解説、評価したもの
4. 特別寄稿 : 委員会が必要と認めて依頼したもの

第 6 条 本年報に掲載する著作の本文原稿（引用注、参考文献等を含む）は、横組みとし、原則として次の分量とする。

1. 論文、実践報告 : 4 0 0 字詰め原稿用紙 4 0 枚程度。（16, 000 字程度）
2. 文献・資料紹介 : 同 2 5 枚程度。（10, 000 字程度）

② 図表等を挿入する場合は、およその挿入箇所を予め指定し、これを含めて前項の分量

に収めるものとする。

- ③ 前項の分量を著しく超えるものは、委員会の議を経て、分割掲載することがある。

第7条 本年報に掲載する著作は、原則として日本語によるものとする。

- ② 外国語により著作を掲載しようとする者は、原則として邦訳文を添付しなければならない。その場合、邦訳文を前条の分量に収めるものとする。

第8条 執筆者は、本文原稿のほかに、次のものを添付して提出するものとする。

1. 本文要約（800字以内）
2. タイトル、氏名、所属、連絡先、著作区分
3. タイトル・氏名の英語表記

- ② 原稿提出にあたっては、本文原稿のほかに前項のものを原則として電子媒体に収め、印刷物と併せて提出するものとする。

第9条 原稿提出の期限は、委員会が決定し、執筆希望者に明らかにする。

- ② 原稿の受付日は、委員会に提出された日とする。

第10条 委員会は、提出された原稿について、本年報に掲載の適否を判断するため、査読委員会を構成し、査読を依頼する。

- ② 委員会は、当分の間、査読委員会を兼ねる。

- ③ 査読委員会は、提出された原稿を査読し、掲載の適否、修正等に関する意見を委員会に報告する。

第11条 委員会は、査読委員会の報告を踏まえ、原稿の掲載の可否を決定し、また執筆者に対し補筆、修正等を求めることができる。

第12条 校正は、執筆者が行い、原則として2校までとする。

- ② 校正時における原稿の大幅な変更は、これを認めない。

第13条 執筆は原則として無償とするが、特別な印刷等の仕様を要する場合は、執筆者に実費を請求する場合がある。

第14条 本年報の配布先は、委員会が選定する。

第15条 本年報は、摂南大学図書館が運営する摂南大学学術機関リポジトリ（以下「リポジトリ」という）に登録する。登録においては、以下のとおりとする。

1. 執筆者は、原稿の受理の時点において、リポジトリへの登録に同意したものとする。
2. 原稿は、摂南大学学術機関リポジトリ運営要項第4条（登録対象）を満たすものであること。満たさないことによるすべての責任は執筆者が負う。

付則 1. この申し合わせは2004年12月24日から施行する。

2. この改定申し合わせは2014年10月28日から施行する。

編集後記

『摂南大学教育学研究』第11号ができあがりました。

本号では表紙の通り、4本の研究論文と1本の実践報告を掲載しています。各執筆者の専門、立場から書かれており、バラエティに富んだものとなったと思っております。

大野順子先生は、今年度から本学教職課程においていただきました。ご専門は教育社会学で、「教職実践演習」では教育格差やマイノリティをテーマとした授業をなさり、学生からは、大きなインパクトを受けたと聞きました。また、藪中征代先生は聖徳大学大学院にご所属ですが、同一の親子の絵本の読み聞かせの様子を、乳児期から10年近く追いつけていらっしゃいました。今後、『摂南大学教育学研究』がさらに充実したものとなるべく、多方面の皆様方からのご寄稿を心よりお待ちしております。

先に述べた「教職実践演習」は、今年度で2年目となりますが、今回も学内外の、本当に多くの方にご尽力いただきました。また、教育実習やその事前・事後指導や学生へのご講演、今年度から開講された「教員免許状更新講習・必修領域」でのご講義など、さまざまな方にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後とも、教職課程へご指導、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

編集委員・幹事 吉田 佐治子